東北大学医学部
後援会会報
No. 9
2012.7
発行：東北大学医学部後援会
編集委員会　平成 24 年 7 月

ご挨拶

東北大学医学部後援会会長
舟山　眞人

大学構内では、未だ建物に残る壁のひびに大震災の記憶を残していますが、医学部では、いつくかの復興プロジェクトが開始となり、新たな再生への道のりがスタートしました。その中の一つとして、ここ１～２年のうちに、被災地医療の復興と東北医療の活性化を目指す、日本ではじめてのメディカル・メガバンク機構が誕生しました。1・2 年生の学生さんには、完成に向け、日々大きくなるメガバンク棟を目にするでしょうし、これから卒業する学生さんの中には、実際にこの中で研究を行う人もいるでしょう。詳細については、医学部内のホームページに譲るとして、わが医学部は医学・医療を学ぶ場として、今後も最高の機会を提供してくれるでしょう。

ところで、お子様方がここで学び、そして巣立っていく先は、まさに専門職として医療の仕事に就くということです。医学部に入られた動機は様々でしょう。さらに色々学び、たくさんの先生や友人と話すうちに、また、新たな希望が出てくることでしょう。しかし病んでいる人々を助けたい、そして将来、多くの人を同じような苦しみから解放させてあげたい、という入学時の思いは変わらぬものと思います。若い人たちの力が復興の原動力です。ぜひ、この初心を忘れずに、大学生活を送っていただければと思います。

さて、医学部後援会も発足して５年目を迎えました。今年も教育活動や課外活動などへの支援、また、ご父兄のみなさまへの学生生活に関連した広報など、いろいろな事業を計画しています。新しい会員のご父兄の皆様に向け、少し具体的に後援会活動のご紹介をしましょう。

学生さんの教育活動に関わることは、原則的に大学側が負担するわけですが、中には資金提供自体が難しい事業も少なくありません。例えば、新入生が全員参加するアドバイザー教員とのオリエンテーションでの昼食費、あるいは卒業式謝恩会などの支援は後援会の役目です。７月末に行われる医学部オープンキャンパスは学外から大変好評で、多くの学生さんがボランテアとして参加します。数年前からユニフォームを製作していますが、この作成費も後援会で援助しています。

一方で、図書館への参考図書の整備は大学の仕事ですが、書籍関連経費の高騰により、十分な手当ができません。そこで、後援会から毎年、多数の図書の寄贈を行っています。その他にも大学院生・医学生発表会への支援、学生課外活動への援助など毎年 10 前後の事業を行い、また、今後も学生さんが係わる行事の支援を積極的に拡げていこうと考えています。ぜひ、ご父兄の皆様におかれましては、後援会を通じ、学生諸君の応援をよろしくお願い申し上げます。

なお、毎年のことですが、入学祝賀会では辛酉会さま（東北大学病院の業務支援を行う財団）から、多額の援助をいただいております。理事長の平　則夫様はじめ、辛酉会の皆さまに厚く御礼申し上げます。

仙台七夕まつり

◎開催時期：毎年８月６日から８日
仙台七夕まつりは、仙台藩祖の伊達政宗公が奨励したともいわれている伝統的なお祭りです。期間中は七夕パレードなども賑やかに行われ、名実ともに日本一を誇る仙台の夏の風物詩。その見どころはなんといっても、豪華で壮麗な七夕飾りにあります。街の中心を東西南北に貫くアーケード街は、まさにメインストリート。清々しい青竹に吊るされた涼やかな和紙の短冊や長い吹き流しがそよぐ姿は、その風を感じるだけでも不思議と心が癒されるようです。

後援会会員・学生の皆様へ

東北大学医学部長・医学系研究科長
大内　憲明

新入生並びにご父兄の皆様、改めまして東北大学医学部へのご入学おめでとうございます。

東北大学医学部は、明治５年（1872 年）の宮城県立医学所の設立から 140 周年を迎えました。現在、卒業生は１万人を超えて日本の医療を支えるとともに、世界に通用する医学研究を推進し、人々の健康・福祉の向上に寄与しています。

私どもは医学に対する強い探求心を育み、常に高い目的意識を持ち、問題提起及び解決を成し遂げる事ができる人材育成を目標としています。

東北大学医学部の特徴は、第一に実力に裏打ちされた個性溢れる教授陣によるきめ細かい教育が挙げられます。第二に旧七帝大（東京大学、京都大学、東北大学、大阪大学、九州大学、名古屋大学及び北海道大学）の中で、唯一の１県１大学医学部として、教育・研究・診療（地域医療を含む）の全てに責任を持ち、実行していることです。

今後、高度医療技術の開発とその臨床応用が益々重要になり、東北大学医学部はその医学教育・研究の中核としての存在感をさらに高めることになるでしょう。そこで、柔軟で広い視野と豊かな感性、倫理性を持ち、自由な発想力から既知の壁を越えることができる若者の活躍が求められます。

学生生活は始まったばかりですが、医学科では６年、保健学科では４年、さらに大学院進学を目指す方は長期間の学園生活を過ごすことになります。従いまして、学業と共に心身の健康・鍛錬も重要になります。「よく学び、よく遊べ」をモットーに豊かな学生生活を送られることを期待しております。

これから医学を志す諸君は、困難な課題の解決を目指して、医学・医療のプロフェッショナルである私どもと共に必ずや解決策を見つけてくれるものと確信しています。

最後に**「志（こころざし）を持って臨めば夢は必ず叶えられる」**の言葉を送り、歓迎の挨拶といたします。

新入生を迎えて

東北大学医学部医学科長
笹野　公伸

東北大学医学部医学科においての学生教育は、しっかりとした知識と確かな技術に基づき高い医療倫理を有する医師を社会に向けて送り出すことを一番の目的としております。

従来から、いわゆるヒポクラテスの誓いと言われる概念が古今東西の医学生の心構えとして何よりも重要と考えられてきたのではないかと思われます。加えて、現在の医療環境では論語にあります " 仏心鬼手 " と言う概念も医学生の教育理念として入ってくるのではないかと考えます。あわせて、東北大学の従来からの基本方針であります “ 門戸開放 ” と “ 研究中心主義 ” に基づき自分で物事が考えられる医学部学生を育てていくのも、本医学科では重要視しております。

医学部の卒業生は種々の領域でリーダーとして何よりも広い見識と深い洞察力が求められております。こうしたことから医学部学生は、卒業後の多様な進路を考えますと広い視点で医学というものを学んでいく必要が今の時代何よりも社会から重要視されてると思われます。もう二十年以上も前のことで申し訳ありませんが、米国でレジデントをしておりました時に学生教育にも少し関わりました。その時に医師たる者が一番やってはいけないことは "tunnel vision" に陥ることであるという警鐘を最初に教授が学生に強調された記憶があります。この tunnel vision あるいは Kalnienk vision とも呼ばれる言葉は暗いトンネルの中では先の小さな明かりしか見えず、周囲が何も見えなくなるということから、視野／考えが狭窄になるという現象の比喩として良く使われます。特に、医学の領域でこの格言は、診療面では病気は治りましたが、患者さんは亡くなってしまいました。“ あるいは研究面では ” 癌特有の遺伝子と考えておりましたら元々検索した細胞を顕微鏡で見たら正常細胞でしたと言うようなことです。

これらは医師、医学の研究者たる者、絶対に回避すべきという内容を教育するキャッチフレーズとして現在でも臨床と研究の双方の面での基本を教える際によく強調されているようです。本邦でも同様のことを示す非常に良い格言があります。すなわち “ 木を見て森を見ず ” と言う言葉で、医学部学生は絶えずこの言葉を胸に刻むべきと考えます。そこで本医学科では、広い視野に基づいて問題解決に向けての指導力・実践能力を育む教育を推進しております。しかし、同時に医学教育は学生さん方の能動的な学習能力が何よりも求められます。すなわち、医学部の教育はある面で職業人教育であることは否めませんので、“ 水を飲みたくない馬に綱をつけて無理に池に連れて行くことはしない ” と言う側面があることもここで強調したと思います。

東北大学医学部医学科は、教育と研究に日夜取り組んでいます。未来を支える医療人を目指そうとされている皆さんに本医学科にて、充実した時間を共有することを楽しみにしております。

新入生を迎えて（保護者の皆様へ）

東北大学医学部保健学科長
塩飽　仁

平成24年4月5日（木）の午前に、平成24年度の東北大学入学式が行われ、医学部保健学科も146名の新入生を迎えました。

今年度に入学された学生の保護者の皆様には、改めて保健学科を代表して心よりお慶び申し上げます。

昨年3月の東日本大震災以降の受験準備は、相当の努力を要するものだったと推察いたします。学生と保護者の皆様の尽瘁に我々教職員一同は、いつにもまして敬意を表し歓迎したいと思います。

震災の爪痕が残りつつも、復興に向かって地域が一丸となって取り組んでいるこの仙台の地を、東北大学を選んで進学した学生の志に我々教職員は頼もしさを感じ、また喜びに満ちあふれる感覚を持ちます。今年の春の学生の入学は格別でした。

入学式が行われた午後に、後援会の主催で開いていただいた「入学記念祝賀会」で新入生の皆さんとお話しする機会がありました。ご自身が被災された学生も多く、ご家族で避難されている様子もうかがうことができました。そのなかで、被災の体験やボランティア活動への参加を通して、また、被災地の様子を見聞きして人々の健康を支える人間になりたいという信念を得て保健学科を目指した学生がたくさんいることに気がつきました。

東北大学の理念は三つあります「研究第一主義」、「門戸開放」、「実学尊重」です。保健学科での学生生活はまさに、この三つを常に意識して臨む必要があります。すなわち、医療の現場に還元する研究ができるリサーチマインドを培い、いつでも・どこでも・誰とでも・ともに学ぶしなやかで謙虚な態度を身につけ、常に人々の健康を思い人々の尊厳を重んじる姿勢を涵養することを自らの命題として勉学に励み、一流の専門家を目指していただきたいと考えています。

ただし、心がないとこれらの学びは結実しません。これらの理念や命題に加えて、学生にはコミュニケーションする力とネットワークを創造する力を身につけて欲しいと私は願っています。学生時代に、自分の心を知り、他者を尊重し、心を通わせるスキルを高めて欲しいと思います。なぜなら、心がない科学は大成しないからです。

「時」は流れるといいますが、流れない「時」もあります。「時」は雪のように降り積もります（平成24年3月11日読売新聞「編集手帳」より）。

震災で甚大な被害を被ったこの東北の地で、人々の幸福を願って科学を学ぶ意義が確かにあります。学生の皆さんには、実態のない思想としての「絆」よりも、強い意志のもとに行動として示す「絆」を、ぜひここで学び取って欲しいと思っています。学生時代に、この地で、どのような時を積み重ねているかを自分に問いかけ続けて欲しいとも思っています。

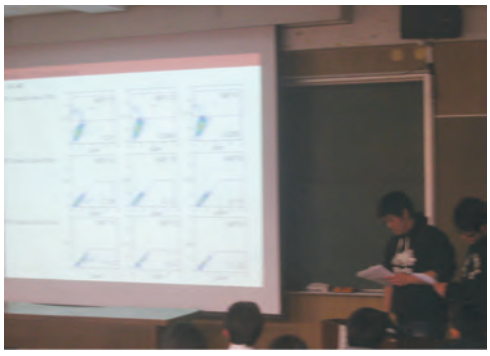
我々教職員は、今年の春に学生や卒業生の皆さんとともに学び歩んでいく決意を新たにしました。後援会会員の皆様には、今後も温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年度医学科3年次 基礎医学修練発表会について

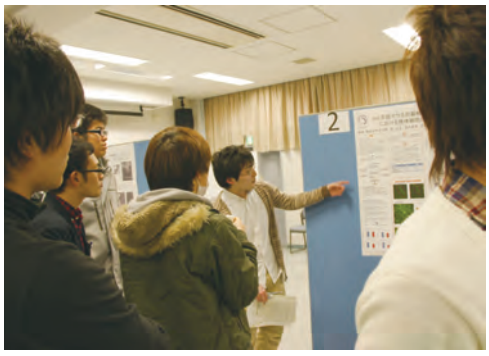
医学科運営委員会
委員長　柴原　茂樹
基礎医学修練発表会実行委員会
委員長　鈴木　聡志

平成23年度の基礎医学修練発表会を去る、3月8日（木）、9日（金）の2日間、医学科3年生全員参加のもとに実施されました。広い分野から、口演発表41演題、ポスター発表18題が発表され、2年生や教員も参加しての活発な討議がなされました。今年度から、奨学金を得て海外留学を行った学生は英語での発表・質疑応答を行いました。また、抄録集の配布を新規に実施しました。抄録集は学会の形式に準じたものとし、発表内容を皆で共有できるツールとして非常に強力なものとなりました。

当日は発表ごとに多くの学生から質問が出され、議論も非常に活発に行われました。特に、ポスターセッションを聞きに来る学生が非常に多く、質の高い議論がなされていました。



発表の様子



ポスターセッション

今回の基礎医学修練発表会も多くの方々に支えられて行うことができました。特に、医学部後援会の御支援により運営費を確保することができたため、発表会を円滑に実施することができ、質の高い有意義なものにすることができたと考えております。あらためて、多大な御支援に深く感謝申し上げます。

基礎医学修練発表会優秀者表彰式

医学部ＡＯ入試合格者との懇談会開催について

医学部医学科長　柴原　茂樹
医学部保健学科長　吉沢　豊子

平成 24 年度医学部 AO 入試合格者との懇談会を、去る２月 14 日（火）に次のような趣旨で開催いたしました。

★キャリアパス支援の一環として、早期に医学部教育や大学院進学制度等を説明する。

★入学前に課題を与え継続した学習を促す。

この懇談会は、第一部として医学科と保健学科の合格者を集め、伊藤　貞嘉副学部長から挨拶があった後に、学科ごとに別れて教員・大学院学生との懇談会を行いました。

●医学科においては、第二部として昼食をとりながら自己紹介・歓談を行いました。参加者は、合格発表後６日しか経過しておらず最初は緊張しておりましたが、教員の隣に座り、昼食をとりながら話をすることでリラックスできました。昼食後に、柴原　茂樹医学科長から医学科の説明を行い、合格者達は４月の入学以降の大学生活にイメージを持つことができました。

柴原医学科長による医学科の説明

また、中山　啓子大学院医科学専攻長から、研究医養成プログラムについての説明を受け、研究者としての将来像を知ることができました。

続いて、第三部は多数の大学院学生も参加し懇談を行いました。大学院学生の医学科時代の体験談や研究活動などの披露があり、合格者からも様々な質問が出て、今後の大学生活の参考になったようです。

懇談会終了後には、教員から研究室見学の提案があり、多数の新入生が参加しました。合格者には有意義な懇談会となりました。

●保健学科においては、はじめに保健学科大会議室において、全体説明と大学院学生による研究紹介など昼食をとりながら行いました。

その後、看護学、放射線技術科学、検査技術科学のそれぞれの専攻に分かれて懇談会を行いました。

懇談会においては、大学院学生を交えて研究活動や学生生活などリラックスした雰囲気で話しが弾み、終了予定時間を少々オーバーするほどの盛況で、新入生にとって大変有意義な懇談の企画となったようです。

保健学科での懇談

最後に、この懇談会を開催に際して、医学部後援会の御理解をいただき昼食等の必要費用の助成・御支援をいただき実施することができました。大変ありがとうございました。

平成 24 年度医学部 新入生オリエンテーションを実施しました

医学部医学科長　笹野　公伸
医学部保健学科長　塩飽　仁

去る４月６日（金）、本年４月入学した新入生オリエンテーションを実施いたしました。

●医学科では、午前中に大内医学部長、下瀬川大学病院長の挨拶のあと、教育課程や学生生活等についての説明を行い、昼食時間には、アドバイザー教授と食事をとりながら懇談しました。新入生を４～５名の小グループに分け、アドバイザー教授の研究室で昼食をとりながら、和やかな雰囲気で懇談することができました。

午後は、小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血、医師のプロフェッショナリズムに関する意識調査を実施しました。引き続き、脳トレで活躍の川島隆太教授から講演をいただきました。最後に、在校生によるサークル紹介を行い、教員・在校生全体で新入生を迎え入れることができました。

●保健学科では、午前中に学科全体のオリエンテーションと、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻それぞれに分かれて、専攻オリエンテーションを行いました。引き続き、専攻ごとにチューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。チューター教員は今後の学生生活で様々な相談相手となる頼れる存在です。緊張の面持ちで始まったオリエンテーションでしたが、昼食懇談会のお陰で、学業や学生生活などの不安が大分解消されたようで、今年も有意義な懇談の場となりました。

午後は、4号館のパソコンルームに場所を移動し、情報セキュリティ講習会を行いました。その後、小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血を行い、オリエンテーションを無事終了しました。

例年、この行事を開催するに当り、医学部後援会から昼食代などの御援助をいただき、お蔭様を持ちまして新入生と教員の距離も縮まり、緊張していた新入生もリラックスできたようで有意義な時間を過ごすことができました。大変ありがとうございました。

東北大学医学部の重い一年

医学部医学科5年
豊嶋　昌弥

東北大学医学部では、4年生から臨床科目の講義が始まります。私が特に興味を持ったのは循環器の講義でした。小説やドラマで観ていた心臓血管外科の手術の様子を観たり、4大疾患の一つである心筋梗塞や心電図の見方など、いよいよ医学部だという内容を学ぶことができ、学習に熱が入りました。

心電図の見方は自分にとっては理解に難く、講義後の学習会に参加したりしてなんとかついて行こうと必死でした。また、臨床の場で使う基本的な手技の実習も4年生からです。学生同士が行う採血の練習や、一般の方々と一緒に行う医療面接の実習は、自分の医師への道のりの長さを再認識する結果となりました。とにかく、コミュニケーション能力や情報収集能力、体力など知識以外の面での自分の足りない部分を理解することができた講義や実習であったと思います。

また、自分は部活動として医学部軟式テニス部に所属しています。部活は4年生で一先ず区切りがつくので、この夏の大会が最後だという気持ちで臨みました。震災空けで参加できない大学もあるのに大会などやっていいのか、電力の供給がままならない中でテニスに必須なナイターはどうするのかという全体の問題や、怪我人が続出したり、大会前の試験ラッシュとの兼ね合い、自分自身の体調不良など、悩みの尽きない活動となりました。しかし、そのような問題に部員一同で本気で取り組み、そして大会で、ペアと、そして部員と一勝をするという感動は部活をやらなければ得ることが出来なかったことだと思います。

去年3月11日の東日本大震災から1年になりました。幸運にも被害をうけなかった自分が毎日テレビで見ていたのは、自分の食糧や安全が脅かされながらも被災地で常に先頭に立って闘っている医療従事者の皆さんの姿でした。

生涯を人道のために捧げるというヒポクラテスの誓いを体現しているその様子を見て感動し、そして同時にあまりに無力な自分に絶望し涙が流れました。将来命を助けるという使命をもった私たちは、とにかく人として成長しなければなりません。そのためにまずは、今の生活を全力でやりきることを目標にしております。言い訳に聞こえるかもしれませんが、これが自分のこの一年で頑張ったことです。

医学部医学科謝恩会の報告

平成 23 年度医学部医学科
謝恩会幹事代表　大下　　航

去る、平成 24 年 3 月 27 日（火）、平成 23 年度東北大学医学部医学科の謝恩会を江陽グランドホテルにて行いました。

今年度は 50 名近い先生方に御出席いただきまして心より感謝申し上げます。そして、この会を開催するに当たり、東北大学医学部後援会様、東北大学医学部同窓会様、東北大学学生会様、辛酉会様など多方面より御援助をいただきましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、謝恩会の様子ですが、山本　雅之医学部長より、「批判精神を持ち、実証主義を掲げ、合理性を追求してください。」と、御祝辞をいただき、プロフェッショナルとしての心構えを感じました。初期研修へのモチベーションが高まった学生も多かったことと思います。その後、星陵アンサンブルに所属する卒業生による演奏が披露されました。

また、今年度退官される、貫和　敏博先生、本郷　道夫先生からも御言葉をいただきました。そして最後に、病院長の里見　進先生からは、ユーモアを所々織り交ぜたお言葉をいただき、会場は多くの笑いに包まれました。そして、最後に「配慮ある医師になってください。」と、我々の心に沁みる熱いお言葉をいただき、一本締めにて会を締めていただきました。

歓談の最中も、至る所で先生方と学生の間で初期研修に対する姿勢に関してのお話や部活や実習での思い出話に花が咲いており、先生方と共有できた時間の大切さを改めて実感しました。

このような素晴らしい会を開催できたことをとても嬉しく思います。昨年は東日本大震災という未曽有の大災害に学生の立場で医療では貢献できず、我々学生はとても歯痒い思いをしました。今後は医師として、東北大学での 6 年間で学んだ精神を胸に、日々努力し、精進していきたいと思います。

最後になりましたが、快く御協力いただきました、医学部後援会様に感謝の意を表しまして、謝恩会の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

医学部保健学科謝恩会の報告

医学部保健学科謝恩会
代表　葛西　美千代

去る、平成 24 年 3 月 27 日（火）、東北大学学位授与式が仙台市体育館にて行われ、その後の夕刻 19 時より、ホテルメトロポリタン仙台にて、平成 23 年度東北大学医学部保健学科謝恩会を行いました。当日は、4 年間でお世話になった教授、教員、実習先の方など、大勢の来賓の皆様を招待し、学生全員で 4 年間の感謝の気持ちを表すというものでした。

最初に、保健学科長吉澤　豊子教授より、御挨拶と乾杯の音頭を賜り、謝恩会がスタートし、3 専攻の学生たちは、研究室でお世話になった先生への感謝の気持ちを伝えたり、これまでの学生生活における積もるお話をしていました。

また、謝恩会プログラムのレクリエーションとして、ビンゴ大会が行われました。会場は非常に盛り上がり、大変楽しんでいただけたように見受けられました。

最後に、これまでお世話になった先生方に花束の贈呈を行い、これまでの感謝の気持ちを伝えることができたと感じます。今回の謝恩会で、学生も４年間の締めくくりとして、ふさわしい会を開催することができたのではないかと感じています。

この会を開催するに当りまして、医学部後援会より、御支援いただき、招待状の作成や花束、記念品などに活用させていただきました。大変ありがとうございました。

この４年間で学んだことを伝える感謝の気持ちを大切にしながら今後も新しい環境で日々精進していきたいと思います。

医学分館　新刊の学習用図書の充実やその改版の整備について

東北大学附属図書館医学分館長
柴原　茂樹

医学分館は、医学系の図書館として、星陵キャンパスに所属する学生及び教職員の方々に、研究・教育に必要な図書や快適な学習環境を日々提供しています。

医学系の図書は単価が高く、また日々進展する医療技術にともない、改版も頻繁に刊行されます。これらの図書を個人で購入することはもちろん、医学分館でも予算の制約により、いちどに整備することが困難です。一方で貸出や館内利用の傾向をみると、過去２年間の刊行が半数、2000 年代以降の刊行も合わせると９割を超える新刊図書が学生によく利用されている状況です。

学生が最新版のテキストで学習に取り組める環境を提供したく、医学部後援会にお話ししたところ、昨年度よりも大幅な増額の図書購入の御支援をいただきました。これにより『カッツング薬理学：エッセンシャル』の改版や、病気がみえるシリーズの最新巻『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』などの、３月に刊行された利用が多い改版・新刊本を重点的に早急に整備しました。この度の寄贈図書は、エレベーター脇に４月２日から展示しております。

新入生を迎えるにあたり、意欲ある学生が、自学自習に不自由を感じることがないようこれからもバックアップしたいと館員一同考えております。今年度につきましても御支援いただき、大変ありがとうございました。この場をお借りし、改めて感謝、お礼申し上げます。

後援会主催の入学記念祝賀会を開催いたしました

後援会の本年度最初の事業として、平成 24 年 4 月に医学部（医学科、保健学科）に御入学された新入生とその保護者の皆様を対象とした「入学記念祝賀会」を去る、4 月 5 日（木）午後 2 時から、仙台市青葉区の「江陽グランドホテル」において開催いたしました。

当日は、春間近の仙台、晴天に恵まれ、午前は東北大学全体の入学式等が行われ、午後に会場を移動して 400 名を超える参加者（保護者：154 名、新入生：212 名、在学生：6 名、医学部関係者など：50 名）があり大盛況でした。

最初に、大内　憲明医学部長の挨拶、続いて舟山　眞人後援会会長から挨拶の後、御来賓の財団法人辛酉会の平　則夫理事長から御祝辞をいただき、下瀬川　徹大学病院長による乾杯の御発声の後、祝賀パーティが賑々しく開始されました。

その後、笹野　公伸医学科長及び塩飽　仁保健学科長から、各学科の紹介・説明と歓迎のスピーチ、そして、医学科教授及び保健学科教授によるキャリアパスなどの企画が行われ大好評で、楽しい歓談・懇親の 2 時間が瞬く間に過ぎてしまいました。

また、御参加いただきました保護者や新入生などの皆様から、温かな言葉をいただくことができ、初対面の新入生同志や大学関係者や在学生との交流ができたように思われます。

後援会としては、昨年は東日本大震災の影響で入学祝賀会行事を実施できませんでしたので、今年度、この会を実施できましたことに安堵しております。また、御参加された新入生や保護者などから好評を得た行事ではないかと思っております。今後とも、会員の皆様の温かい御支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

医学部後援会事務室

編集後記

医学部後援会は、今年で発足 5 年目を迎えました。会員の皆様、学生、教職員、後援会の設立目的に御理解をいただく多くの方々に支えられ、後援会がその設立趣旨に沿い、順調な活動を続けられることを大変ありがたく、改めて感謝申し上げます。

さて、医学部においては、今年 4 月から、大内医学部長、笹野医学科長及び塩飽保健学科長が新たに就任され、本号に「後援会会員・学生の皆様、新入生を迎えて」の御挨拶をいただきました。

また、今年度の新入生保護者から 150 名の後援会への加入申込みをいただきました。新入生に対する加入割合は 54％で発足後最も低い加入率でした。

後援会の事務担当にとっては厳しい状況で入学時の広報活動に更なる工夫の必要性を強く感じているところです。

後援会は、今年も様々な学生への支援活動を積極的に実施し、その活動状況については年 2 回の会報発行により会員の皆様にお知らせしてまいります。

今後とも後援会に対する御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

医学部後援会事務室

仙台こけし

素朴でかわいらしい表情をみせるこけし。県内には秋保、作並、鳴子、弥治郎、遠刈田などの系統があり、それぞれに受け継がれてきた伝統を垣間見ることができます。

東北大学医学部後援会事務室
〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL : 022-717-7870　E-mail : med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/